

第20回 伊達開拓 「ふるさと従兄弟（い～とこ）」 まちづくりサミット



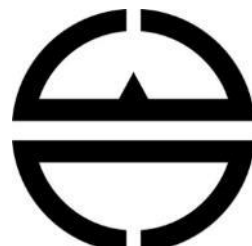
北海道伊達市章



宮城県亘理町章



伊達家家紋「竹に雀」



宮城県山元町章



宮城県紫田町章



福島県新地町章

日時：令和4年11月21日（月）13時30分～

伊達藩「ふるさと姉妹都市・歴史友好都市」連絡協議会

次 第

1 開 会

2 協議会構成市町紹介

3 あ い さ つ 協議会会長 山元町長 橋元 伸一

4 祝 辞 宮城県議員 渡邊 重益 様

5 基 調 講 演

演題 「多発する地震災害と顔の見える相互支援」

講師 東北大学災害科学国際研究所 佐藤 健 様

《休憩 10分》

6 パネルトーク

テーマ「多発する地震災害と被災者支援、次の災害への備え」

パネラー

伊達市長 菊谷 秀吉	伊達市議会議長 阿部 正明
亘理町長 山田 周伸	亘理町議会議長 佐藤 實
山元町長 橋元 伸一	山元町議会議長 岩佐 哲也
柴田町長 滝口 茂	柴田町議会議長 高橋 たい子
新地町長 大堀 武	新地町議会議長 遠藤 満

ファシリテーター

東北大学災害科学国際研究所 定池 祐季 様

ゲスト

東北大学災害科学国際研究所 佐藤 健 様

7 サ ミ ッ ト 宣 言 協議会会長 山元町長 橋元 伸一

8 閉 会 協議会副会長 柴田町長 滝口 茂

伊達開拓 「ふるさと従兄弟(い〜とこ)」まちづくりサミット 開催要領

1 趣 旨

伊達開拓にかかる亘理町、山元町、新地町、柴田町並びに伊達市の5市町「ふるさと従兄弟(い〜とこ)」は、東北の雄、仙台伊達藩の家臣達であり、「海を渡った武士団」として歴史的なつながりを持っている。明治維新を迎え、逆賊の汚名をきせられた伊達藩亘理領主伊達邦成公は北海道開拓で理想郷建設を目指し、明治3年、自ら家臣とその家族を伴い、柴田家も含めた総勢255名を率いて有珠山のふもとに入植し、引き続き明治14年までに家中侍やその家族など2,800人余りが9回にわたり移住し、現在の伊達市の礎を築くこととなった。

こうした歴史的な絆をより確かなものとし、関係5市町等が、次代に継ぐべき文化遺産を生かしたまちづくりと交流によって相互の限りない発展を期するものである。

2 目 的

伊達開拓にかかる関係5市町が“ふるさと”の歴史と文化を正しく伝承し、郷土愛の醸成ならびに関係市町相互の親善交流を促進するため、それぞれの特色を生かしたまちづくりを話し合いながら歴史を学び未来を考えるためまちづくりサミットを開催し、地域の文化・経済の活性化を図る。

3 参加市町

北海道伊達市
宮城県亘理町
宮城県山元町
宮城県柴田町
福島県新地町

4 主 催

伊達藩「ふるさと姉妹都市・歴史友好都市」連絡協議会

5 開催期日

令和4年11月21日(月) 13時30分から16時00分まで

6 開催方法

Zoomによるオンライン会議形式により開催

(サミットの様子はYouTubeによるライブ配信にて一般公開とする)

基調講演

演題 「多発する地震災害と顔の見える相互支援」

講師 東北大学 災害科学国際研究所 ^{さとう}佐藤 ^{たけし}健 氏



【プロフィール】

○略歴

昭和39年	宮城県岩沼市生まれ
昭和60年3月	宮城工業高等専門学校建築学科卒業
昭和60年4月	豊橋技術科学大学建設工学課程3年次編入学
昭和62年3月	同 卒業
昭和62年4月	東北大学大学院工学研究科建築学専攻修士課程入学
平成元年3月	株式会社フジタ入社(建築設計部・技術研究所)
平成8年4月	宮城工業高等専門学校建築学科助手
平成13年4月	東北大学大学院工学研究科附属災害制御研究センター講師
平成19年4月	東北大学大学院工学研究科附属災害制御研究センター准教授
平成24年4月	東北大学災害科学国際研究所教授

○役職など（令和4年11月現在）

東北大学災害科学国際研究所 防災実践推進部門 防災教育実践学分野・教授
総長特別補佐（災害対策推進室・副室長）
防災教育協働センター・センター長

○専門等

地域防災、学校防災、防災教育

工学（都市・建築学）に軸足を置きながら、教育学や社会学、経済学、理学、医学などとの学際的な防災・減災研究に取り組み、学際融合による新しい研究成果の創造と、その社会実装による減災社会の構築を目指している。また、東日本大震災の被災地の復興に関しては、学校の防災管理や子供たちの防災教育を推進するための教育現場に対する支援も行っている。

○主な著書

- ・「災害 その時学校は 事例から学ぶこれからの学校防災」（ぎょうせい）共著
- ・「教育現場の防災読本」（京都大学出版社）共著
- ・「レジリエントな学校づくり-教育中断のリスクと BCP に基づく教育継続」（大修館書店）共著
- ・「教師のための防災学習帳」（朝倉書店）共著
- ・「東日本大震災からのスタート-災害を考える51のアプローチ-」（東北大学出版会）共著
- ・「地球防災ラボ」（岩崎書店）災害科学国際研究所編（分担執筆）

※その他、防災等に関する研究論文の執筆、宮城県内自治体等の各種委員、防災に関する講演を各地で実施。

パネルトーク

テーマ 「多発する地震災害と被災者支援、次の災害への備え」

ファシリテーター 東北大学災害科学国際研究所

きだいけ ゆき
定池 祐季 氏



○略歴

平成14年3月 北海道大学文学部人文科学科卒業

平成16年3月 北海道大学大学院文学研究科人間システム科学専攻 修士課程 修了平成16年4月 旭川市役所市民部資産税課 事務吏員

平成17年4月 北海道大学大学院文学研究科人間システム科学専攻 博士後期課程入学

平成23年4月 公益財団法人 ひょうご震災記念21世紀研究機構 人と防災未来センター・研究員

平成23年3月 北海道大学大学院文学研究科 博士後期課程修了, 博士(文学)

平成23年4月 北海道大学大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター・助教

平成26年4月 東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター・特任助教

平成29年4月 東北大学災害科学国際研究所・助教、現在に至る

○役職など(令和4年11月現在)

東北大学災害科学国際研究所イオン防災環境都市創生共同研究部門

(兼務) 防災実践推進部門 防災教育実践学分野 助教

東北大学災害科学国際研究所 防災教育協働センター・副センター長

福島大学客員研究員、人と防災未来センター・リサーチフェロー

○専門など

災害社会学、地域社会学、防災教育、被災者支援

北海道上川郡剣淵町出身。3年間暮らした奥尻島で北海道南西沖地震(1993年)を経験したことをきっかけに、災害復興、地域防災に関する研究を志す。研究活動や防災教育の実践に加え、北海道南西沖地震の語り部的活動、被災地・被災者支援活動にも携わっている。2012年から北海道厚真町で防災教育に携わり、現在も北海道胆振東部地震発災(2018年)からの復興・生活再建に関わる支援活動を行っている。

■主な著作

・富永良喜・遊間義一・兵庫教育大学連合大学院共同研究プロジェクト編(2018)『災害後の時期に応じた子どもの心理支援 被災体験の表現と分かち合い・防災教育をめぐって』(誠信書房)分担執筆

・災害科学国際研究所編『地球防災ラボ』(岩崎書店)分担執筆

・『「防災教育」と「心のケア」のセットで支える子どもサポート・ハンドブック』(ダウンロード配布の冊子)

http://drredu-collabo.sakura.ne.jp/cms/wp-content/uploads/kodomosupport_handbook.pdf

伊 達 開 拓

「ふるさと従兄弟（い〜とこ）」

まちづくりサミット宣言

伊達開拓「ふるさと従兄弟（い〜とこ）」関係5市町は、歴史的な絆をより確固たるものとし、先人の英知と努力によって築かれた文化遺産を後世に伝えながら、「ふるさと姉妹都市・歴史友好都市」として、産業・教育・文化・まちづくりの相互交流を積極的に推進することにより、限りない躍進と発展をめざすことをここに宣言する。

令和4年11月21日

伊達藩「ふるさと姉妹都市・歴史友好都市」連絡協議会

伊達藩「ふるさと姉妹都市・歴史友好都市」連絡協議会

開催月日	内容等	開催地
平成3年11月21日	連絡協議会設立総会 基調講演「歴史に学ぶ 地域づくり」 公開討論「移住へのかかわりと伊達開拓精神について」	亶理町
平成4年8月22日	公開討論「今後の交流のあり方」	伊達市
平成5年11月12日	基調講演「まちづくり新時代」 公開討論「特色あるまちづくりと地域活性化について」	新地町
平成6年10月13日	基調講演「高齢化社会への対応」 公開討論「住みたいまちづくり」	山元町
平成7年11月7日	基調講演「二十一世紀へのまちづくり」 公開討論「二十一世紀へのまちづくり」	柴田町
平成8年9月22日～23日	スポーツ祭 種目（柔道、剣道、空手、サッカー、バレーボール、バスケットボール）	亶理町
平成9年8月9日～10日	スポーツ祭 種目（野球、柔道、剣道、サッカー、バレーボール、バスケットボール、ラグビー）	亶理町
平成10年7月23日	基調講演「地球環境の保全をめざして」 テーマ「わがふるさとのまちづくり」	新地町
平成11年8月7日	スポーツ祭 種目（野球、剣道、バスケットボール）	山元町
平成12年10月31日	記念コンサート パネルトーク「21世紀のまちづくりについて」	柴田町
平成13年11月8日	基調講演「国際化と健康なまちづくり」 パネルトーク「国際化とまちづくり」	亶理町
平成14年8月10日～11日	スポーツ祭 種目（野球、剣道、バスケットボール）	伊達市
平成15年10月22日	基調講演「交流と連携について」 パネルトーク「交流と連携のまちづくり」	新地町
平成16年8月14日	スポーツ祭 種目（柔道、サッカー、バレーボール）	山元町
平成17年11月9日	基調講演「世界と日本の新しい自治～協働と連携～」 パネルトーク「協働によるまちづくり」	柴田町
平成18年8月12日	スポーツ祭 種目（野球、剣道、バスケットボール）	亶理町
平成19年11月8日	基調講演「地域行政から地域経営へ」 パネルトーク「地域ブランドを活かしたまちづくり」	伊達市
平成20年8月9日	スポーツ祭 種目（柔道、サッカー、バレーボール）	新地町
平成21年10月20日	基調講演「自助・互助・公助でつくる災害に強いまちづくり」 パネルトーク「防災のまちづくり」	山元町
平成22年8月7日	スポーツ祭 種目（野球、バスケットボール、剣道）	柴田町
平成23年	東日本大震災の影響で延期	
平成24年11月15日	基調講演「震災復興と日本の再生」 パネルトーク「災害に強いまちづくり」	亶理町

開催月日	内容等	開催地
平成25年8月10日～11日	スポーツ祭 種目（柔道、サッカー、バレーボール）	伊達市
平成26年11月26日	基調講演「災害を契機としたソーシャル・イノベーション」 パネルトーク「復興と防災のまちづくり」	新地町
平成27年8月8日	スポーツ祭 種目（野球、バスケットボール、剣道）	山元町
平成28年10月26日	基調講演「広域連携とインバウンドの役割」 パネルトーク「訪れたくなるまちの魅力とは」	柴田町
平成29年7月29日	スポーツ祭 種目（柔道、バレーボール）	亘理町
平成30年10月31日	基調講演「伊達を開拓した先人のふるさと —戦国時代から江戸時代の歴史環境—」 パネルトーク「わが町に残る歴史の記憶とその活用」	伊達市
令和元年7月27日	スポーツ祭 種目（バスケットボール、バレーボール）	新地町
令和2年～令和3年	新型コロナウイルス感染症蔓延のためサミット開催を見送り	—

だ て し 北海道 伊 達 市



「桜」は士族によって開拓せられたことから武士の精神を象徴したものであり、「川」は清い川が多く旧地名「モンベツ」「オサルベツ」などの「ベツ」はアイヌ語の「清い川」の意であるので場所を表わしたものである。「円」は開拓当時の苦勞は文字通り全く千辛万苦そのものであって主従を共苦同愛の境に追い込み相より相扶け成功せしめたので「円満」を示したものである。

(昭和11年5月1日制定)



伊達市長 菊谷 秀吉



伊達市議会議長 阿部 正明

世帯数	17,656 世帯
人 口	32,470 人
面 積	444.2 km ²

令和4年10月31日現在

伊達市（北海道）

（だてし）

市制施行 昭和47年4月1日

市役所（本庁舎）〒052-0024

伊達市鹿島町20番地1

代表番号 ☎0142-23-3331（代表）

交通機関・最寄り駅 JR・室蘭本線・伊達紋別駅

【市の概要】

北海道の南西部、北海道の中心都市である札幌市と函館市の間に位置し、北西には有珠山や昭和新山、南は噴火湾（内浦湾）に面しています。

病院、大型ショッピングセンター、福祉施設などの生活に必要な施設がまちなかに集約された「コンパクトシティ」で、北海道内でも雪が少なく、四季を通じて気候が温暖なことから「北の湘南」と呼ばれています。

平成18年3月には旧大滝村（現大滝区）と飛び地合併し、新伊達市として新たなスタートを切りました。

令和元年には伊達市開拓150年を迎え、様々な記念行事が開催され、令和4年には市制施行50年の記念すべき年を迎えます。

【旧地名】

明治33年7月、東紋べつ鼈・西紋べつ鼈・稀府・黄金おこんしべ・長流・有珠の6ヶ村を併せて伊達村と改称した。

【市名の謂れ】

明治3年4月、旧仙台藩一門の亙理伊達家主従の集団移住により開拓が始まったこと由来する。

【「市の木」、「市の花」、「市の鳥」】

木…「エゾヤマザクラ」「ヤマモミジ」

花…「ツツジ」「深山延齡草」

（理由）昭和53年4月、市民から公募して制定。いずれも日常的に市民に親しまれている。

なお、「ヤマモミジ」「深山延齡草」は、旧大滝村のシンボルであったものを、合併時に加えたものである。

鳥…制定していない。

【姉妹都市等】

- ①宮城県亙理町…ふるさと姉妹都市
昭和56年4月17日締結
- ②福島県新地町…ふるさと姉妹都市
昭和57年7月21日締結

- ③宮城県山元町…ふるさと姉妹都市
昭和63年4月17日締結
- ④宮城県柴田町…歴史友好都市
昭和63年5月30日締結
- ⑤カナダ国レイクカウチン町…姉妹都市
平成元年10月8日締結
- ⑥大阪府枚方市…市民交流宣言都市（経済交流のまち）
平成18年9月1日締結
- ⑦中華人民共和国福建省漳しょうしゅう州市…友好都市
平成22年4月7日締結
- ⑧北海道当別町…歴史兄弟都市
令和2年10月9日締結

【まちづくりの基本目標】

- ①稼ぐ力と雇用を生み出すまちづくり
- ②豊かな心と人を育むまちづくり
- ③健やかで人にやさしいまちづくり
- ④安心・安全で住み良いまちづくり
- ⑤市民力を生かしたまちづくり

【将来像】

みんなが豊かさを感じられる
市民幸福度最高のまち

【特色ある事業】

- ①伊達ウェルシーランド構想推進事業
- ②心の伊達市民
- ③駅前整備推進事業（市街地再開発事業）
- ④優良田園住宅「田園せきない」造成事業
- ⑤防災公園だて歴史の杜整備事業
- ⑥醸造用ぶどう生産推進事業

【主要ニュース】

- 第7次伊達市総合計画策定（H31.3）
- 大滝小学校、大滝中学校が閉校（H31.3）し、義務教育学校である大滝徳舜誓学校が開校（H31.4）
- だて歴史文化ミュージアム開設（H31.4）



だて歴史文化ミュージアム

- 伊達150年記念式典挙行、記念事業として花火大会開催 (R1. 8)



伊達150年記念花火大会

- 黄金小学校が閉校し、東小学校に統合 (R2. 3)
- 伊達市・当別町歴史兄弟都市盟約締結 (R2. 10)
- 新「伊達火葬場」供用開始 (R3. 4)
- 伊達高等学校と伊達緑丘高等学校が統合し、北海道伊達開来高等学校が開校 (R3. 4)
- 北黄金貝塚を含む北海道・北東北の縄文遺跡群が世界文化遺産登録 (R3. 7)
- 稀府小学校が閉校し、東小学校に統合 (R4. 3)

【自慢の施設】

- ①伊達市総合体育館「あかつき」…市民スポーツや健康づくりの拠点のほか、災害発生時には避難施設として利用。
- ②温水プール・トレーニング室…伊達市総合体育館に併設され、子どもから高齢者まで幅広い年代の方が楽しめ、年間を通じて利用可能。
- ③だて歴史の杜カルチャーセンター「あけぼの」…1000人以上の観客を収容できるホールを有し、芸術・文化・生涯学習活動の拠点。
- ④だて歴史の杜食育センター…安全・安心な学校給食の提供のほか、2階の食育レストランでは伊達産食材を用いた軽食やその日の給食メニューを提供。
- ⑤まなびの里パークゴルフ場…4コース36ホール規模を誇る西胆振最大級のパークゴルフ場。
- ⑥まなびの里サッカー場…研修棟や屋内運動場を備えた西胆振で唯一、北海道でも数少ない人工芝のサッカー場。
- ⑦ノルディックウォーキングコース…夏はウッドチップが敷かれたノルディックウォーキングコース、冬は優れた雪質を利用したクロスカントリーコースに利用。

【観光資源】

- ①伊達市観光物産館…道の駅「だて歴史の杜」の中核施設であり、地場産品の販売や観光情報を発信。
- ②だて歴史文化ミュージアム…文化財や美術

品の展示・活用と文化・芸術の振興を一体化した博物館。体験学習館では藍染め体験や武士の象徴である日本刀の文化を知る体験・見学が可能。

- ③迎賓館…伊達邦成が伊達の開拓にあたった功績で明治政府から男爵の位を受けた祝いに、家臣らによって明示25年に建てられた邸宅。平成4年に市の有形文化財に指定。
- ④旧三戸部家住宅…明治10年後半に当時の仙台地方の建築様式を取り入れて建てられた北海道内に現存する最古級の開拓農家で文化的価値が非常に高い建物。昭和46年に国の重要文化財に指定。
- ⑤バチラー夫妻記念堂…ジョン・バチラー夫妻の養女向井八重子（バチラー八重子）らがキリスト教布教のために建てた石造りのモダンな教会堂。
- ⑥史跡北黄金貝塚公園…約7000年から4500年前の縄文前期・中期の集落遺跡。縄文文化を体感できる「史跡公園」として整備し、出土品を展示した北黄金情報センターを併設。



北黄金貝塚

- ⑦有珠善光寺…北海道最古（826年開基）の名刹で、桜の名所。宝物館には国重要指定文化財や釈迦如来立像などを展示。
- ⑧有珠海水浴場…遠浅の海岸でファミリー向き、近くのアトリ岬から望む夕陽は絶景。
- ⑨北湯沢温泉郷…明治30年に発見された温泉で、保養滞在型観光としても古くから利用。
- ⑩徳舜磐山…大滝区にある標高1309mの火山であり、すぐ隣のホロホロ山と双耳峰を成す。北海道の百名山に選定。
- ⑪ニョロニョロ（通称）…大滝区で厳寒期の洞窟に発生する単結晶氷筍。
- ⑫三階滝公園…長流川上流部にあり、落差20mでありながら三段の層をなし、豊富なマイナスイオンを発生。

【特産品・名産品】

- ①噴火湾のホタテ
- ②マツカワ（ブランドネーム「王鰈」）
- ③キンキのいずし
- ④昆布のぐいのみ
- ⑤黄金豚…三元豚にホエーを給餌することで肉質がやわらかくジューシーな伊達のブランド豚
- ⑥伊達トマト「藤五郎」
- ⑦大滝産長いも
- ⑧伊達野菜（道内有数の野菜産地）
- ⑨アロニア加工品…ポリフェノールを多く含んだ果実
- ⑩各種キノコ
- ⑪藍の染料・藍染の製品
- ⑫伊達納豆
- ⑬地酒

【盛んなスポーツ】

- ①剣道、柔道
- ②パークゴルフ
- ③ノルディックウォーキング
- ④クロスカントリースキー

【イベント】

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ここ数年は中止や規模を縮小して開催しております。

- ①春一番伊達ハーフマラソン（4月中旬）…春の訪れが早い伊達の気候を生かして、全国各地からランナーが参加。
- ②おおたき国際ノルディックウォーキング（7月下旬）…2本のポールを使って、ウッドチップが敷き詰められたコースを歩く、年齢を問わずに誰でも手軽に参加できる大会。
- ③伊達武者まつり（8月上旬）…伊達騎馬総陣立・伊達武者山車など多彩な催し物が市民総参加で行われる伊達市の夏の一大イベント。
- ④だて噴火湾縄文まつり（8月下旬）…北黄金貝塚公園内を会場に、楽しみながら縄文文化が体験できるイベント。
- ⑤だて食のフェスティバル（9月中旬）…北海道内の「うまいもの」が伊達市に集結するイベント。
- ⑥だて農業・漁業・大物産まつり（10月上旬）…伊達市内の農水産品、特産品が一堂に会する、伊達の味覚を味わうためのお祭り。
- ⑦おおたき国際スキーマラソン（2月上旬）…親子で楽しめる歩くスキーから本格的なクロスカントリースキーを通して、健康増進を図るとともに大滝区の自然を広く知っていただくためのイベント。
- ⑧伊達雪まつり冬の陣（2月中旬）…雪遊びなど一日中楽しめる様々な催しや人気グルメを集めた伊達の冬を満喫できるイベント。



春一番伊達ハーフマラソン

【主要文化財】

- ①善光寺跡（天長3年（826年）開基の北海道内最古の寺）…国指定史跡
- ②北黄金貝塚（北海道・北東北の縄文遺跡群が世界文化遺産登録）…国指定史跡
- ③旧三戸部家住宅（道内最古の開拓農家）…国指定重要文化財
- ④釈迦如来立像…道指定有形文化財
- ⑤円空作仏像聖観音像…道指定有形文化財
- ⑥宇佐美長光作による太刀…国指定旧重要美術品
- ⑦迎賓館（旧伊達家邸宅）…伊達市指定有形文化財

【歴史上の人物】

- ①伊達邦成…伊達開拓を成功に導いた最後の互理領主
- ②バチラー夫妻…有珠でアイヌ民族へのキリスト教布教に生涯をささげた。

【ゆかりのある人物】

- ①千葉勝美（最高裁判所裁判官）
- ②藤田貴大（演出家、岸和田國男戯曲賞受賞者）
- ③尾形藤吉（競走馬調教師・故人）
- ④佐々木寒湖（書家・故人）
- ⑤掛川源一郎（写真家・故人）
- ⑥宮澤裕樹（プロサッカー選手）
- ⑦ワタリ119（お笑い芸人）

【名人】

- ①渡辺惟平（渡辺徹）…刀匠、市民生活文化伝承者

【よくわかる参考図書】

- ①伊達市史（伊達市発行）
- ②伊達小史（伊達市発行）
- ③朔北に挑む（伊達市発行）
- ④大滝村史・大滝村史続刊（大滝村発行）
- ⑤大滝百年誌（大滝村発行）
- ⑥互理伊達家史料（伊達市開拓記念館所蔵）

宮城県 亘理町



亘理の「ワ」を図案化したもので、簡潔、ざん新、かつ堂々とした形は、融和、堅実性と未来への発展を表現している。



亘理町長 山田 周伸



亘理町議会議長 佐藤 實

世帯数	13,210 世帯
人口	33,351 人
面積	73.60 km ²

令和4年10月31日現在

亶理町（宮城県）

（わたりちょう）

町制施行 昭和 30 年 2 月 1 日

町役場 〒989-2393

亶理町字悠里 1 番地

代表番号 ☎0223-34-1111

交通機関・最寄り駅 JR常磐線 亶理駅

【町の概要】

宮城県の南東部に位置し、政令指定都市仙台市からJR常磐線で約30分の地にある。

北に阿武隈川が流れ、自然景観が織りなす海、山、川など天性の風土に恵まれ、冬暖かく夏涼しい気候温暖な住みよいまちである。

基幹産業は農業で、温暖な気候と都市近郊の立地条件を活かしたいちごや施設野菜、りんご、アセロラ栽培が行われている。

また、荒浜漁港には大型のカレイやヒラメ等が水揚げされ、東京・名古屋に高級活魚として直送されている。

平成23年3月1日に発生した東日本大震災の大津波によって、306人の尊い生命や財産などが一瞬にして失われ、被害総額も3,353億円と甚大な額の被害を受けた。

住宅の被害も津波によって、2,436棟が全壊し、221棟が大規模半壊、628棟が半壊という被害を受けた。

被災された方々の生活再建の第一歩となる防災集団移転促進事業や災害公営住宅の整備などの住宅再建、多重防御・避難道路などの防災減災対策等に取り組み、令和3年3月に亶理町震災復興計画を完遂した。

【旧地名】

旧亶理町・荒浜町・吉田村・逢隈村の2町2村が昭和30年2月1日に合併し、現亶理町が誕生した。

【町名のいわれ】

「わたり」は、元来大和言葉であり、古くから川や海を渡る所を称した。表記の漢字は異なるがこの地名は、日本の各地に残っている。

亶理という地名は、延暦16年（797年）完成の「続日本紀」に初めて文献として登場する。

これによると養老2年（718年）5月2日の条に曰理くわたりと記されていて、この曰理が現在の亶理であるといわれている。

【「町の花」や「木」「鳥」などのシンボル】

花 サザンカ

理由 中秋から冬にかけて咲き、その力強く咲く姿は、大きく発展する亶理の姿を象徴している。

木 黒松

理由 庭木や防潮林としてだれにでも親しまれている。

鳥 なし

亶理町観光PR

キャラクター「わたりん」



【主要課題】

- ①持続可能で利便性の高い公共交通機関の充実
- ②引き続き企業誘致を進めるとともに、地元雇用の推進、地域に根ざした産業振興の一層の推進
- ③農業等について、亶理ならではの長を生かし、他地域との差別化による産業振興
- ④「新しい生活様式」やテレワークなど、多様な生活スタイルや働き方への対応
- ⑤小中学校の統廃合を含めた学校の適正規模の検討
- ⑥子育て支援について、様々な段階や支援対象などを含め、ソフト・ハード両面での多角的な施策展開
- ⑦これまでの防災・消防・救急対策に加え、激甚化する豪雨対策等への備え

【特色ある事業】

- ①子育て世代包括支援センター事業
- ②鳥の海エリア共創事業
- ③企業誘致推進事業
- ④住民向けプッシュ通知サービス事業
- ⑤学校給食センター建設事業
- ⑥地域資源を活かした観光事業

【キャッチフレーズ】

山と川、里と海を人と時代でつなぐまち

（時の流れ）

【主要ニュース】

- 役場庁舎・保健福祉センター開庁（R2.1）
- 亶理地区交流センター・子育て包括支援センター開所（R2.4）
- デマンド型乗合タクシー「わたりん号」運行開始（R2.8）
- 亶理町震災復興計画完遂（R3.3）

- 第 5 次亶理町総合発展計画後期基本計画及び第 2 期亶理町まち・ひと・しごと創生総合戦略始動 (R3. 4)
- 観光事業計画「WATARI TRIPLE C PROJECT」始動 (R3. 4)
- 町内初の地域おこし協力隊を委嘱 (R3. 4)
- 町内初のネーミングライツ・パートナー契約締結 (2 社) (R3. 6)
- 亶理駅バリアフリー整備工事完了、東口改札供用開始 (R4. 3)



ライトアップされた役場庁舎

【盛んなスポーツ】

- ①野 球
- ②サッカー
 - サッカー関係での本町出身の有名人
 - ・武田 信平 (特定非営利活動法人日本アンパティサッカー協会理事長)
 - ・鈴木 淳 (ソニー仙台 FC 監督)

【特産品】

- ① いちご 年間通して気候が温暖な亶理町はいちご栽培に適した地域であり「東北一のいちご生産地」として知られ、町内ではいちご狩りも楽しめる。



いちご

- ②りんご 亶理産のりんごは、市場には出回らないことから幻のりんごとされ、完熟で濃厚な味わいが好評である。

- ③アセロラ 1994 年に亶理町の伊藤正雄さんが、アセロラの苗木を植えその後近隣の仲間で栽培するようになった。

【宅配便】

- ①りんご宅急便 (りんご生産者)
 - ②はらこめしセット宅急便 (亶理郵便局)
 - ③笹かまぼこ (町内かまぼこ製造販売業者)
 - ④みんなの亶理 (オンラインショップ)
- URL:<http://minnano-watari.com/>

【観光資源】

- ・いちご狩り観光農園
 - J Aをはじめ各農家が経営している。
 - 1~5 月頃までいちご狩りが楽しめる。
- ・わたり温泉鳥の海
 - 泉質は、黄金色でとろっとしており、肌に優しく効能も高い温泉です。
- ・きずなポート“わたり”
 - にぎわいと交流を担う複合施設です。

【名産・お土産】

- ①いちご・いちご加工品
- ②りんご・りんご加工品
- ③アセロラ
- ④春菊
- ⑤笹かまぼこ
- ⑥梅ようかん・いちごようかん
- ⑦荒浜漁港産仙台がれい (干しがれい)
- ⑧かにみそ
- ⑨もち米あられ

【郷土料理】

- ①はらこめし
 - 産卵のため、阿武隈川に帰って来たサケを捕獲しサケの切り身を煮込んだ汁で味付けしたごはんの上に、サケの切り身と卵 (はらこ) をのせた料理。
 - 10 月 8 日は、はらこめしの日



はらこめし

- ②サケのあら汁

【名人】

- ①加藤 文夫・ひろ子（ひろ窯）
亶理伊達家で焼かせていた末家焼（ぼっけやき）を新しい形で再現している。
TEL0223-34-2238

【歴史上の人物】

- ①亶理権太夫 藤原経清
11世紀頃、亶理を治めていたといわれるのが亶理権太夫経清である。1051年、安倍頼時が国司の命に背いて反乱を起こした「前9年の役」では頼時に味方し、ともに国府軍と戦ったが源頼義に敗れた。しかし、経清の子、清衡はその後かかる動乱を制し、奥州藤原氏の基礎を築き、平泉に一大文化を発展させた。
- ②伊達藤五郎成実
伊達政宗公の従兄弟にあたる亶理領主で、政宗公の片腕として活躍した。また、城下町亶理の基礎を築いた。
- ③伊達邦成
最後の亶理領主。明治維新のとき、幕府軍に味方して領地を没収された。明治3年、自ら藩士とその家族 2,609 人を率いて、有珠山（北海道）のふもとに入植し、現在の伊達市の基礎を築いた。後に開拓の功績により明治25年、華族に列せられ、男爵を授けられた。

【姉妹都市】

- ①伊達市（北海道）
明治3年、仙台藩亶理領主伊達邦成公が入植した開拓の地。
昭和56年4月17日縁組

【友好都市】

- ①日出町（大分県）
東日本大震災を機縁に友好都市を締結。
平成26年11月27日縁組

【イベント】

- ①わたりふるさと夏まつり
震災で犠牲となられた方々の供養と平和への願いを込め、灯籠流しのほか、7,000発の花火の打上げを行う。
実施日 8月15日



夜空を彩る流灯花火

- ②荒浜漁港水産まつり
新鮮な海産物が所狭しと並ぶ即売コーナーやはらこめしの試食・販売、ミニ競り体験など、亶理の味覚を満喫できるまつり。
実施日 10月15日
- ③わたりマラソン大会
風光明媚な亶理町・鳥の海を肌で感じながら駆け抜けるコース。幅広い年代層に人気の大会です。
実施日 11月13日
- ⑤伊達なわたりまるごとフェア
亶理の豊かな農・水・商工業を一堂に会し、試食会あり実演会ありのまるごと楽しいまつり。
実施日 3月5日

【主要文化財】

- | | |
|---------------|------------|
| ①三十三間堂官衙遺跡 | 国指定文化財 |
| ②阿弥陀如来立像（黒本尊） | 県指定文化財 |
| ③伊達成実霊屋 | 県指定文化財 |
| ④木造伊達成実木像 | 県指定文化財 |
| ⑤伊達家歴代墓所 | 県指定文化財 |
| ⑥牛袋法印神楽 | 町指定無形民俗文化財 |
| ⑦亶理獅子舞 | 町指定無形民俗文化財 |
| ⑧亶理拵取り舞 | 町指定無形民俗文化財 |

【よくわかる図書】

- ①亶理町史 上・下巻（亶理町史編纂委員会）
②亶理町史 現代編（亶理町史編纂委員会）
③亶理小史（亶理小史編纂委員会）
④郷土わたり（亶理郷土史研究会）
⑤伊達成実公亶理入府四百年記念誌（平成14年10月、亶理町企画課）
⑥わたり60年のあゆみ（亶理町町制施行60周年記念誌）（平成27年3月、亶理町企画財政課）
⑦わたり復興のあゆみ-2011.3~2021.3（令和3年3月、亶理町財政課）

【博物館・美術館・記念館・民族資料館】

- ①亶理町立郷土資料館
亶理町の歴史を映像や図版、多くの資料により、わかりやすく展示。
郷土をテーマに「特別展」を企画。

しん ち まち 福島県 新 地 町



町章は新地の「しん」の字を図案化したもので、新地町が太平洋をのぞみ、前途洋々たる姿を表し、円形は町民の融和と団結を、円形から鳥が飛び立つ姿は、町の産業文化の発展を示し、新地町が大海に向かって大きくはばたくことを象徴したものです。



新地町長 大堀 武



新地町議会議員 遠藤 満

世帯数	2,948 世帯
人口	7,733 人
面積	46.70 km ²

令和4年10月31日現在

新地町（福島県）

（しんちまち）

町制施行 昭和46年8月1日

町役場 〒979-2792
新地町谷地小屋字樋掛田 30

代表番号 ☎0244-62-2111
交通機関・最寄り駅 JR常磐線 新地駅

【町の概要】

福島県の太平洋側最北部に位置し、海・里・山・田園と豊かな自然環境を有しており、自然を利用した農業・漁業が主産業となっています。海洋性気候により年間の平均気温は13度で、夏は涼しく、冬は温かく降雪も少ないことから四季を通じて穏やかな気候に恵まれています。

全国初の電源地帯工業団地の指定を受けた相馬地域総合開発計画を中心とした、“まちづくり”を進めてきましたが、平成23年3月11日の東日本大震災により町の全面積の5分の1に及ぶ約904haが浸水し630世帯の住宅が全半壊の被害を受け、農地も約4割にあたる約420haが浸水による被害を受けました。復興計画に基づき、防災集団移転促進事業や災害公営住宅整備事業による被災者の住宅再建をすすめ、新地駅周辺市街地整備事業や防災緑地整備事業等を実施しました。

令和3年2月13日には震度6強、令和4年3月16日に震度6弱の地震により、住宅や公共施設、インフラに被害を受け、現在も復旧に取り組んでいます。

【旧地名】

新地村・福田村・駒ヶ嶺村

昭和29年8月20日3村合併により新地村誕生
昭和46年8月1日町制施行により新地町となる。

【町名のいわれ】

開拓地であることから新しい土地、新地となる。

【「町の花」や「木」「鳥」などのシンボル】

花 さくら

木 松

鳥 きじ

魚 かれい

理由 町民からのアンケートを基に、町民憲章制定委員会で決定した。

【主要課題】

- ① 定住人口の確保
- ② 生活利便性の確保
- ③ 多様な産業の振興・復興
- ④ 自然環境の保全・活用
- ⑤ 強靱で安全安心な環境の整備
- ⑥ 高齢者の健康づくりの支援
- ⑦ 子育て・教育環境の充実
- ⑧ 協働のまちづくりの推進

【特色ある事業】

- ① 起業家支援補助事業
- ② 新婚生活支援事業
- ③ 小中学校ICT教育環境整備事業
- ④ 保育所同時入所第2子以降保育料無料化事業
- ⑤ 移住・定住促進事業
- ⑥ 多目的交通事業
- ⑦ スマートコミュニティ事業

【めざす将来像・キャッチフレーズ】

安心して暮らせる 活力あるまち しんち

【主要ニュース】

- 釣師防災緑地公園開園（R1.12）
- 新地駅前フットサル場「スマイルドーム」完成（R1.3）
- 9年ぶりに釣師浜海水浴場開設（R1.7）
- 福島天然ガス発電所1号機運転開始（R2.4）
- 福島FRC有限責任事業組合カイハツFRC株式会社操業開始（R2.5）
- しんちパンプトラックオープン（R2.7）
- 新地駅周辺市街地整備事業竣工式（R2.11）
- 釣師浜漁港の新地地方卸売市場再開（R2.12）
- 薬王堂福島新地店が津波復興拠点整備事業拡大区域内で営業開始（R3.3）
- 第6次新地町総合計画策定（R3.4）
- 町制施行50周年（R3.8）
- 株式会社ソーカ新地工場操業開始（R4.8）
- 相双五城信用組合新地支店が津波復興拠点整備事業拡大区域内で営業開始（R4.9）



▲ 釣師防災緑地公園

【自慢の風景】

- ①鹿狼山（標高430m）の原生林
福島県緑の百景



▲鹿狼山

【特産・おみやげ】

- ①純米吟醸酒「鹿狼山」
- ②りんご（りんごジュース 果汁 100%）
- ③ニラ
- ④イチジク
（いちじく愛す・新地やん味菜たれ等）
- ⑤トマト
- ⑥青南蛮味噌・ネギ南蛮味噌
- ⑦コシヒカリ・天のつぶ
- ⑧レモンケーキ
- ⑨新地のおすそわけ
（新地町の美味しい特産品を詰め込んだセット）
- ⑩たこしゅうまい



▲特産品詰め合わせセット

【観光資源】

- ①鹿狼山 ハイキングコース
- ②釣師防災緑地公園
（パンプトラック・オートキャンプサイト・B
BQサイト）



▲しんちパンプトラック

- ③釣師浜海水浴場
- ④海釣り公園（休止中）



▲海釣り公園

- ⑤観海タウンしんち
（文化交流センター・フットサル場・
複合商業施設・エネルギーセンター）
- ⑥総合公園
（体育館・野球場・子どもの森・テニスコ
ート）
- ⑦新地三清水
（いっぱい清水・右近清水・真弓清水）
- ⑧縄文遺跡 三貫地貝塚・新地貝塚
- ⑨パークゴルフ やく草の森新地パークゴル
フ場



▲フットサル場

【ゆかりのある人物】

- ①遠藤 新 (建築設計家)
- ②野地 紀一 (元清水建設会長)
- ③荒 稲蔵 (元原子力船むつ船長)
- ④星 茂 (画家)
- ⑤斎藤 研 (画家)
- ⑥鈴木 正夫 (民謡歌手)
- ⑦寺島 泰三 (元自衛隊統合幕僚議長)

【歴史上の人物】

- ①目黒 重真
県内初共立小学校(観海堂)を設立
- ②氏家 閑存
観海堂の教師、3村の教育に貢献

【姉妹都市】

- ①伊達市 (北海道)
先祖が伊達藩の住民で、北海道に開拓移住した。
昭和57年7月21日縁組

【イベント】

- ①「日本一早い山開き！」鹿狼山元旦登山
実施日 1月1日
- ②遊海しんち
実施日 8月第1土曜日



▲遊海しんち (浜焼きの様子)

- ③ふるさと産業まつり
実施日 11月中旬
- ④健康福祉まつり
実施日 11月中旬
- ⑤図書館まつり
実施日 11月中旬
- ⑥生涯学習フェスティバル
実施日 1月下旬

【祭りなど伝統行事】

- ①福田十二神楽
- ②安波祭

【主要文化財】

- ①新地貝塚
国指定史跡文化財
- ②三貫地貝塚
県指定史跡文化財
- ③雀塚古墳群
- ④延喜式内子眉峰神社
- ⑤福田古館
- ⑥谷地小屋要害跡
- ⑦新地城(蓑首城)跡

- ⑧駒ヶ嶺城(臥牛城)跡
- ⑨御殿岬(戊辰戦役の戦場跡)
- ⑩観海堂(跡地) 県指定史跡文化財
- ⑪旧小塩邸「くるめがすりの家」(故遠藤新設計)
- ⑫福田十二神楽 県指定無形民俗文化財

【歌碑や記念碑】

- ①観海堂記念碑
- ②臥牛城跡碑
- ③松山藩戊辰戦役碑



▲観海堂記念碑

【四季の風景】

- ①1月1日 「日本一早い山開き！」
鹿狼山元旦登山
- ②7月中旬 釣師浜海水浴場海開き
- ③8月上旬 遊海しんち
- ④11月中旬 ふるさと産業まつり



▲釣師浜海水浴場

【よくわかる参考図書】

- 新地町史(自然民族編)(新地町史編纂委員会)
新地町史(資料編) (新地町史編纂委員会)
新地町史(歴史編) (新地町史編纂委員会)

【イメージカラー】

しんちブルー

正式には決まっていないが、太平洋の海の青と空の青をイメージカラーとして使用している。

しば た まち
宮城県 柴田町



柴田の2字を図案化したもので柴田町の興隆を象徴しています。この町章は、昭和36年12月20日町民から募集した作品をもとに制定しました。力強く飛翔する柴田町をデザインしたものです。



柴田町長 滝口 茂



柴田町議会議長 高橋 たい子

世帯数	16,230 世帯
人口	36,977 人
面積	54.03 km ²

令和4年10月31日現在

柴田町（宮城県）

（しばたまち）

町制施行 昭和31年4月1日

町役所 〒989-1692

柴田町船岡中央 2-3-45

代表番号 ☎0224-55-2111

交通機関・最寄り駅 JR東北本線船岡駅

【町の概要】

仙台市から南へ25kmに位置し、町の東南端を阿武隈川、中央部を白石川が流れ町を二分している。国道4号線、JR東北本線、阿武隈急行線などが走る交通要衝の地の利を生かし、企業誘致を進めた結果、食品関連や精密機器関連などの大手企業が進出し、事務所を構えている。

白石川堤の一目千本桜、船岡城址公園は全国有数の桜の名所。その他、多くの遺跡にも恵まれている。

【旧地名】

昭和31年4月1日に船岡町と槻木町が合併し、柴田町になる。

【「町の花」や「木」「鳥」などのシンボル】

昭和50年10月10日制定

花 さくら 春になると船岡城址公園や白石川堤に淡紅色の可憐な花を咲かせる「さくら」。町もさくらのように、末代まで親しみ愛されるようにと制定。

木 もみの木 大河ドラマ「樞ノ木は残った」の放映で町民にとってもなじみのある「もみの木」。町も、もみの木のように、大空に向かって一直線に伸びるようにと制定。

鳥 きじ 母性愛が強く、美しい姿が柴田町を象徴しているような「きじ」。町も、きじのように、いつまでも美しく慈しまれるようにと制定。



はなみちちゃん

花のまちイメージキャラクター「はなみちちゃん」

【基本目標】

- ① 快適な公共空間の整備
- ② 教育・文化・交流都市の創造
- ③ 子育てにやさしい安全で安心なまちの構築
- ④ 地方創生による稼ぐ力の醸成
- ⑤ 参加と協働による住民自治の実践

【特色ある事業】

- ① 「花のまち柴田」シティプロモーション事業
- ② ガーデンツーリズム事業
- ③ 官民連携による柴田町総合体育館建設事業
- ④ フットパス関連事業
- ⑤ トップアスリート育成事業
- ⑥ 白石川堤「一目千本桜」ブランド化事業

【キャッチフレーズ】

「笑顔があふれ 誇りと愛着を育む 花のまち」

【主要ニュース】

- 柴田町・北上市 姉妹都市締結40周年（R1）



- 太陽の村キッズバイクパーク開設（R2）



- 柴田高校野球部甲子園初出場（R3）



○役場庁舎の耐震補強等工事完了 (R3)



○柴田町防災拠点・総合体育館敷地造成工事完成 (R3)



○2020東京オリンピック・パラリンピック
ベラルーシ共和国新体操ナショナルチーム
事前合宿受入 (H29~R3)



○「ガーデンツーリズム登録制度」東北初登録 (R4)



【特産品】

① ゆず



② 花き



③ ぜいたく味噌



【観光資源】

① 船岡城址公園・白石川堤の一目千本桜



② 自然休養村「太陽の村」



【ゆかりのある故人】

- ①大池 唯雄（直木賞作家）
代表作：秋田口の兄弟
- ②小室 達（彫刻家）
代表作：伊達政宗騎馬像
- ③大泉 茂基（詩人・版画家）
代表作：男の顔

【歴史上の人物】

- ①仙台藩奉行 原田 甲斐
- ② 〃 柴田 外記

【姉妹都市・友好都市】

- ①北上市（岩手県）
北上川があり、桜の名所。戦時中、勤労動員で黒沢尻女子校生徒が船岡で働いたことから縁組となる。昭和55年1月25日締結
- ②丹陽市（中華人民共和国）
友好往来都市「鎮江市」との10年来の交流で実現。平成6年2月23日締結
- ③伊達市（北海道）
明治維新開拓に赴いた事情から提携。い〜とこサミットで交流。昭和63年5月30日提携
- ④アシス・シャトブリアン市（ブラジル連邦共和国）
当時の市長の父親が柴田町出身者。昭和56年4月13日提携

【イベント】

- ① しばたスプリングフラワーフェスティバル
船岡城址公園 期間／3月中旬



②しばた桜まつり

白石川堤、船岡城址公園 期間／4月上旬～中旬



③しばた紫陽花まつり

船岡城址公園 期間／6月中旬～7月上旬



④しばた曼珠沙華まつり

船岡城址公園 期間／9月中旬～10月上旬



⑤しばたオータムガーデンフェスタ

船岡城址公園 期間／10月中旬



- ⑥みやぎ大菊花展 柴田大会
船岡城址公園 期間／10月20日～11月13日



- ⑦しばた雨乞の柚子販売会
船岡城址公園 期間／11月下旬



- ⑧Shibata Fantasy Illumination
船岡城址公園など 期間／12月上旬～下旬



【主要文化財（県指定文化財）】

- ①十二神将（円龍寺）
- ②薬師如来立像（円龍寺）
- ③鉄造阿弥陀仏如来（大光院）
- ④絹本着色両界曼荼羅図（大光院）
- ⑤富沢磨崖仏群（富沢地区）

【天然記念物】

- ①雨乞のイチョウ（国指定）
雨乞（あまご）は地名。樹齢推定600年、根回り11m、高さ31m。

- ②不動堂のフジ（県指定）
樹齢古いものではあるが不詳。カヤの木に巻きついたフジで、毎春紫色の見事な花をつける。

【都市宣言】

- ①男女共同参画都市宣言（平成10年6月）
「男女共同参画都市宣言」を行った柴田町は、「しばた男女共同参画プラン」に基づき、男女共同参画社会の実現と新しい価値の創造を目指した施策を展開しています。
- ②スポーツ都市宣言（平成11年6月）
町民一人ひとりが、ライフスタイルに合ったスポーツやレクリエーション活動を楽しく継続的に実施できるよう「スポーツ都市宣言」を行いました。スポーツ環境の整備とスポーツに関わるさまざまなコミュニティの醸成、また町民の意識の高揚を図っていきます。
- ③非核平和都市宣言（平成22年6月）
子どもたちの夢のある未来へ、地球が、故郷が永久（とわ）に平和であることを願い「非核平和都市宣言」を行いました。宣言を契機に、一人ひとりに平和の心が少しずつ根付いていくようみなさんと一緒に取り組んでいきます。

【参考図書】

柴田町史（柴田町発行）

宮城県 山元町



山元の2字を図案化し、全体の円は町民の団結、融和、協力を表し、仙台湾にあって将来仙台圏の衛星都市として限りなく発展する山元町の、力強く回転する歯車を象徴している。中心より上の部分は躍進する若々しい芽生えを意味している。



山元町長 橋元 伸一



山元町議会議長 岩佐 哲也

世帯数	4,823 世帯
人口	11,772 人
面積	64.58 km ²

令和4年10月31日現在

山元町（宮城県）

（やまもとちょう）

町制施行 昭和30年2月1日

町役場 〒989-2292山元町浅生原字作田山32

代表番号 ☎0223-37-1111

交通機関・最寄り駅 JR常磐線 山下駅

【町の概要】

宮城県の東南端に位置し、西には阿武隈山地の山並みがあり、東は太平洋に面し、温暖な気候風土と緑豊かな自然に囲まれた、海の幸・山の幸ともに豊富な町である。基幹産業は農業で、りんごやいちごについては県内でも有数の生産量を誇る。

平成23年3月11日の東日本大震災では、町内の約40%弱の面積が津波被害を受け、637名の尊い命が失われるとともに、約4,500棟の家屋が被災した。

8年の復興計画期間が終了し、令和元年12月に第6次山元町総合計画を策定、町の将来像「キラリやまもと！みんなでつくる笑顔あふれるまち」を実現するため各種事業に取り組んでいる。



つばめの杜地区（新山下駅周辺地区）

【旧地名】

山下村・坂元村

昭和30年2月1日合併し町制を施行

【町名のいわれ】

旧山下村・坂元村両村合併の際に、山下村の「山」と坂元村の「元」を生かし、山元町が誕生した。

【「町の花」や「木」「鳥」などのシンボル】

花 ツツジ（昭和60年11月制定）

木 クロマツ（町制施行20周年記念事業とし

て、町木を制定するために町民から募集。昭和50年11月、最も多かったクロマツを制定。）

鳥 ツバメ（昭和60年11月制定）

【主要課題】

- ① 産業用地の整備、企業誘致の推進
- ② 定住の促進
- ③ 少子化対策の推進
- ④ 医療福祉の充実
- ⑤ 豪雨水害対策

【特色ある事業】

- ① 学校給食費補助事業
- ② 定住促進対策事業(移住・定住支援補助)
- ③ 山元町ブランド推進事業
- ④ 頑張る新人農家支援事業
- ⑤ 未来のいちご生産者サポート事業
- ⑥ 学校教育充実事業(みのりプロジェクト)

【キャッチフレーズ】

キラリやまもと！

みんなでつくる笑顔あふれるまち

【福祉行政】

- ① 健康づくりウォーキング事業
- ② 生活支援体制整備事業
- ③ 元気やまもと子育てアプリ事業
- ④ 宮城病院との連携支援事業
- ⑤ 子ども医療費助成事業

【主要ニュース】

- ① 農水産物直売所「やまもと夢いちごの郷」オープン(H31.2)
- ② 役場庁舎復旧完了、開庁式を開催(R1.5)



山元町役場新庁舎

- ③ 震災遺構中浜小学校の一般公開開始 (R2. 9)



震災遺構中浜小学校

- ④ 常磐自動車道・仙台東部道路の一部区間山元IC～岩沼IC間が4車線運用開始 (R3. 3)
 ⑤ 新県道相馬互理線（嵩上げ道路）が全線開通 (R3. 3)

【自慢の風景】

- ① 唐船番所跡（史跡）を整備した磯崎山公園
 ② 360度のパノラマが楽しめる四方山
 ③ 県の緑地環境保全地域に指定された深山自然観察路

【自慢の施設】

- ① 歴史民俗資料館
 ② ふるさと伝承館
 ③ 深山山麓少年の森
 ④ 牛橋公園
 ⑤ つばめの杜中央公園
 ⑥ 子育て拠点施設
 つばめの杜保育所、こどもセンター等
 ⑦ 山元町防災拠点・坂元地域交流センター
 “ふるさとおもだか館”
 ⑧ 山元町防災拠点・山下地域交流センター
 “つばめの杜ひだまりホール”



つばめの杜ひだまりホール

- ⑨ 震災遺構中浜小学校
 ⑩ やまもと夢いちごの郷



やまもと夢いちごの郷

【盛んなスポーツ】

- ① ソフトボール
 ② スポーツ少年団活動（野球・バスケットボール・バレーボール・剣道・柔道・空手道等）

【伝統文化伝承】

- ① 創作太鼓
 ② 伝統文化伝承活動
 「坂元おけさ」「坂元子ども神楽」



受け継がれる「坂元子ども神楽」

【特産品】

- ① いちご及び加工品（ワイン・アイスなど）
 ② りんご及び加工品（アップルパイなど）
 ③ ホッキ貝
 ④ シャインマスカット
 ⑤ ぶどう液
 ⑥ 元祖生芋こんにやく
 ⑦ いちじく
 ⑧ 復興芝生（ラグビーワールドカップの開催されたトヨタスタジアムや東京五輪が開催された宮城スタジアムで採用された）



復興芝生が採用された宮城スタジアム

【観光資源】

- ① 深山山麓少年の森
BMXコースや遊具、広場のほか、1年中楽しめる深山自然観察路がある。
- ② 宮城野ゴルフクラブ
温暖な気候のため、ほとんど1年中プレーすることができる。
- ③ 葦首城跡（坂元神社）
葦首城は仙台藩伊達家の家臣であった大條家の居城跡で、現在跡地は坂元神社に利用されている。高台にあるため周囲の町並みが展望できる。
- ④ 歴史民俗資料館
山元町の歴史、民俗、自然の3部門に加え、2015年に「合戦原遺跡」の横穴墓で発見され、日本初手法で移設保存を行った「線刻壁画」が常設展示されており、町の自然、歴史、風俗、文化のすべてを知ることができる。



古代のお墓などの壁に線を刻んで描かれた1400年前の「線刻壁画」

- ⑤ 四方山
山元町、角田市、亘理町にまたがる四方山。頂上からは、360度の雄大なパノラマを堪能することができます。

- ⑥ 磯崎山公園
伊達藩唐船番所跡や志賀潔博士の記念碑などがあります。また、北は牡鹿半島、南は福島県の鶴ノ尾崎まで見渡すことができます。
- ⑦ イチゴワールド
ハウスの中に展望ルームが設置され、いちごの栽培風景を普段とは違った目線から眺める体験ができるほか、イチゴが作られる過程や豆知識も知ることができる。
- ⑧ Berry Very Labo
山元いちご農園内にあるカフェ。農園でとれたイチゴを使った特性イチゴカレーのほか、パフェやケーキなどのメニューが味わえる。隣接するハウスでのいちご狩りも人気。
- ⑨ やまもと夢いちごの郷
山元町の特産品をはじめ、旬の野菜や魚介類、選りすぐられた山元ブランド認証品を中心とする加工品、できたての総菜まで揃った農産物直売所。老若男女、世代を問わず買い物を楽しめる直売所として親しまれています。

【郷土料理】

- ① ほっきめし
ホッキ貝の身を煮た汁でご飯を炊き、その上にホッキの身をのせたご飯。



地元民が愛する郷土料理「ほっきめし」

- ② はらこめし
鮭の切り身を煮た汁でご飯を炊き、その上に鮭の切り身と「はらこ（いくら）」をのせたご飯。）

【ゆかりのある人物】

- ① 志賀 潔（細菌学者）
赤痢菌を発見した世界的な細菌学者であり、第1回山元町名誉町民晩年を山元町磯浜で過ごした。



- ② プロ野球千葉ロッテ
小坂 誠二軍打撃兼内野守備兼走塁コーチ

【姉妹都市】

- ・ 北海道伊達市
昭和63年4月17日縁組

【イベント】

- ① 坂元神社春祭り (実施日4月上旬)
- ② 唄って踊ってWAIWAI祭り (実施日7月上旬)
- ③ やまもとひまわり祭り (実施日8月上旬)



5. 5haの広大な農地に咲き誇るひまわり

- ④ 山元町町民文化祭 (実施日11月上旬)
- ⑤ キラリ☆やまもと花火祭
(実施日11月上旬)
- ⑥ 手作りイルミネーションコダナリエ
(実施日12月上旬～1月上旬)



手作りイルミネーションコダナリエ

【祭りなど伝統行事】

- ① 八重垣神社(お天王さん)祭り(7月下旬)
本祭りの神輿渡御の儀で、約30人の担ぎ手により笠野の海に入る姿は圧巻。
- ② 坂元神社夏祭り(7月下旬)
子ども神輿が町を練り歩き、夜には境内において巫女舞、神楽などが奉納される。

【主要文化財】

- ① 養賢堂の襖絵(町指定文化財)
- ② 蓑首城跡(町指定文化財)

- ③ 茶室・蓑首城大手門・板倉(町指定文化財)
- ④ 唐船番所跡・日記(町指定文化財)

【代表的な民謡やPRソング】

- ① 坂元おけさ
- ② 笠浜甚句
- ③ 山元音頭
- ④ 花釜音頭
- ⑤ 希望の詩「ない」

【民話・伝説】

- ・ 蛇塚と松[現存していた松に伝わる民話]
赤ん坊を嬰兒籠(えじこ)に入れて田植えをしていたところ、大蛇がえじこを2重3重に巻いていたので、村の人達は刃物を持ってめった打ちにしてとどめを刺した。ところがそれ以来悪病が流行し、村人は困り果てた。ある夜大蛇が来て「お告げ」があり、「今まで家内や赤ん坊を守ってきたのに無念だ」と言い残し、消え去った。その後、ほこらを建てて祈願すると悪病が無くなり、その時植えた松は木肌がうるこのようで、とぐろを巻いた蛇のように見えた。

【記念物】

- ・ かやの老樹
大平地区明見山明光院の境内にある老木。木の高さは約30m、幹周りは8mで、樹齢は600年以上と推定され、町文化財に指定している。

【参考図書】

- ① 山元町誌(第1巻～第3巻)
- ② 第6次山元町総合計画

【キャラクター】

- ・ ホッキーくん
山元町PR担当係長として町の魅力を発信するために活動している。
(特産品のホッキ貝をモチーフにしたキャラクター)



- ・ せんこくん
山元町の歴史PR係として活躍中。素朴な落書き風が持ち味。
『線刻壁画』に描かれている人物をモチーフにデザインされたキャラクター)

